

長年なじまれた表紙を今号で一変させました。センターだよりは創刊号を出したのが昭和54年5月10日のことで、2代目水産増殖センター所長の伊藤進博士が発案したものでした。当初はB5の縦書きでモノクロ印刷でした。また、増殖センターが平成15年度に組織統合のため水産総合研究センター増養殖研究所となって「だより」名称にも変更がありました。

以来、現在までに109号を数える伝統ある情報発信誌となっております。

今回、110号を発刊するに当たり、表紙図柄や体裁を変更し、シンプルなものとししました。長年ご愛顧のセンターだよりでしたが、これを機会に体裁・内容ともに衣替えして一層の内容の充実を図りたいと存じますのでご了承願います。

表紙写真は当所2階からの遠望ですが、遠く浅虫の裸島を望み、8月1日に開通したホタテ大橋を対岸に見る風光明媚な大小の島々の眺めです。その昔、現茂

浦漁港内はきれいな砂浜であり、ここにシロナマコが多産していた頃のことです。昭和38年5月20日、昭和天皇、皇后両陛下が浅虫臨海実験所にお出でになった際、裸島の陰から遠く茂浦島と菜の花に囲まれた茂浦部落方面を眺めて、「茂浦はどこ？」とご下問になったとか。「畑井のシロナマコ」とは初代浅虫臨海実験所長畑井新喜司博士がご進講されたシロナマコのことを思い出されて、その産地である茂浦のことを聞かれたものです。

明治の頃には、この茂浦島の奥部を軍港にする計画もあったとか。青森に宮様がお出でになった際には、大湊要港部から軍艦を青森に差し向けて、この風光明媚な島々の周遊でもてなしたとか。

この平和な当所のたたずまいが末永く存続することを祈念して摺筆とします。(塩)